



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
- 3. intra-mart e Builder for Accel Platform 2024 Autumn からの変更点
- 4. 機能一覧
- 5. プラグイン一覧
- 6. システム要件
- 7. 検証済み環境
- 8. 制限事項
- 9. 著作権および特記事項
- 10. 保証規程

改訂情報

変更年月日	変更内容
-------	------

2025-04-01	初版
------------	----

本書の目的

本書では intra-mart e Builder for Accel Platform のリリース内容について記載されています。

製品の利用対象

次の利用を対象としています。

- intra-mart Accel Platform 上で動作するアプリケーションの開発を行う場合。

本書に記載されている外部サイトのURL

- 本書内で記載されている外部URLは、2025年 04月 現在のものです。

intra-mart e Builder for Accel Platform 2024 Autumn からの変更点

システム要件

- intra-mart e Builder for Accel Platform の基盤となる Eclipse を 4.27.0 2023-03 R から 4.34.0 2024-12 R へと変更しました。
 - 上記対応に伴い、JDK 21 に対応しました。
- intra-mart Accel Platform 2025 Spring(Kamille) に対応しました。

検証済み環境

- JDK 21 を検証対象に追加しました。

追加された機能

- 追加された機能はありません。

削除された機能

- 削除された機能はありません。

変更された機能

- 変更された機能はありません。

追加された制限事項

- 追加された制限事項はありません。

大分類	小分類	機能概要
共通機能	モジュール・プロジェクト作成機能	intra-mart Accel Platform 用の開発プロジェクトを作成する機能です。
	モジュールエディタ	モジュールメタデータファイル(module.xml)専用のエディタです。
	デバッグサーバ機能	e Builder から起動可能な「intra-mart Accel Platform」専用の開発環境用サーバです。 このとき、「intra-mart Accel Platform」は、デバッグサーバライセンスとして動作します。
	immファイルエクスポート機能	開発が完了したモジュール・プロジェクトをユーザ定義モジュールファイルとしてエクスポートする機能です。
スクリプト開発支援機能	HTMLエディタ	Eclipse WTPで提供されているWebページ・エディタにスクリプト開発用の入力補完と パレットメニューの追加、および開発したHTMLのプレビューを表示し、 開発を支援する機能です。
	JSエディタ	開発を支援する機能です。
	デバッグ機能	スクリプト開発において、VJETで提供されているJavaScriptエディタに、入力補完を 追加した開発支援機能です。 開発したJSファイルに対するデバッグを行う機能です。
JavaEE 開発 共通支援機能	JSPエディタ	Eclipse WTPで提供されているWebページ・エディタにJSP開発用の入力補完と パレットメニューの追加、および開発したJSPのプレビューを表示し、 開発を支援する機能です。
	デバッグ機能	開発したJavaファイルに対するデバッグを行う機能です。
IM-JavaEE Framework 開発支援機能	IM-JavaEEフレームワークエディタ	IM-JavaEEフレームワークフレームワークでの開発を支援するエディタ機能です。

大分類	小分類	機能概要
業務スケルトン機能	基盤機能	業務スケルトンテンプレートを利用する機能と、業務スケルトンテンプレートの開発支援機能です。
	スクリプト開発用テンプレート	スクリプト開発用のテンプレートです。
	SAStruts+S2JDBC 開発用テンプレート	SAStruts+S2JDBC 開発用のテンプレートです。
	TERASOLUNA Server Framework 開発用テンプレート	TERASOLUNA Server Framework 開発用のテンプレートです。

プラグイン一覧

- intra-mart e Builder for Accel Platform を動作させるために同梱されているプラグインの一覧を本項で示します。

intra-mart e Builder for Accel Platform はEclipse、およびEclipseの各種プラグイン製品であり

以下によって開発されたソフトウェアが含まれております。

ソフトウェアのマニュアルなどの各種機能の詳細については各URLより参照してください。

ソフトウェアのライセンスについては、各URLで明記されている該当ページを参照してください。

また、intra-mart e Builder for Accel Platform のプラグインの動作検証は下記のプラグインをインストールして実施しています。

OSS 製品 / intra-mart 製品	バージョン	ライセンス	URL
Eclipse IDE for Java EE Developers	4.34.0	EPL	https://www.eclipse.org/
Babel Language Packs	R0.20.0	EPL	https://projects.eclipse.org/projects/technology.babel
Kantan Properties Editor	1.0.7	MIT	https://gitlab.com/tyatsumi/proped/
VJET	0.10.0	EPL	https://wiki.eclipse.org/VJET
intra-mart e Builder	8.0.37	IM	https://www.intra-mart.jp/
Business Skeleton	4.0.3	IM	https://www.intra-mart.jp/



コラム

EPL : Eclipse Public License - v 1.0

MIT : MIT License

IM : 株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ イントラマート



注意

バージョン管理システムにSVNを利用する場合、別途SVNKitなどのSVNクライアントプラグインをインストールする必要があります。



コラム

intra-mart e Builder for Accel Platform 2023 Autumn 以降では、以下のプラグインは含まれません。

- Checkstyle
- color theme
- Findbugs
- JUnit Helper
- m2e connector for build-helper
- propedit
- Spring Tool Suite (STS)
- Workspace Preference Transferrer
- IM-Juggling

IM-Juggling プラグインについては、「[プロダクトファイルダウンロード](#)」から IM-Juggling 本体をダウンロードできますので、そちらをご利用ください。

当バージョンにおけるシステム要件は次の通りです。



コラム

本ページでは、e Builder 本体とデバッグサーバに関するシステム要件について説明を行います。

デバッグサーバとは、e Builder から起動可能な「intra-mart Accel Platform」専用の開発環境用サーバです。

デバッグサーバとして利用できるWebアプリケーションサーバは、Resin 4.0 のみです。

各種別要件

種別	製品名
オペレーティングシステム	Windows 10 (64bit) Windows 11 (64bit)
Java	Oracle JDK 21 OpenJDK 21 (Red Hat) Amazon Corretto 21 ※ インストール済みJREについては intra-mart Accel Platform に準拠します。
Eclipse	Eclipse 4.34.0 2024-12 R
必要メモリ容量(JVM)	推奨する最小構成 1GB以上推奨
必要ディスク容量	2GB以上
intra-mart Accel Platform	intra-mart Accel Platform 2012 Autumn(Alba) ～ intra-mart Accel Platform 2025 Spring(Kamille)



コラム

- 推奨メモリは intra-mart e Builder for Accel Platform のみを動作させた場合の推奨メモリです。
intra-mart Accel Platform を動作させる場合は、動作させるためのメモリ領域の確保が必要です。
詳細は「intra-mart Accel Platform リリースノート」を参照してください。



注意

- デバッグサーバは、上記のシステム環境にて intra-mart Accel Platform のセットアップを行います。
デバッグサーバは、開発環境として e Builder から利用するに限り上記のシステム要件をサポートします。

検証済み環境

- 以下、弊社動作検証済み（推奨）の intra-mart 製品と他社ミドルウェア製品との組み合わせを記します。
弊社では以下の環境をサポートしますが、intra-mart製品以外（OS、JVM、Eclipseおよび各種Eclipseプラグイン等）に起因する問題が発生した場合は保証致しかねます。

クライアント環境

OS	JDK
Windows 10 (64bit)	Amazon Corretto 21
Windows 11 (64bit)	

デバッグサーバ環境

- intra-mart Accel Platform 2025 Spring(Kamille)

当バージョンにおける制限事項は以下の通りです。

共通機能

デバッグサーバライセンスには各種利用制限があります。

- デバッグサーバライセンスとは、開発支援ツール「e Builder」を購入したお客様が開発用に利用できる「intra-mart Accel Platform」のライセンスです。デバッグサーバライセンスは、アプリケーションの開発を目的に、intra-mart Accel Platform のすべての機能を利用できます。デバッグサーバライセンスには以下の注意事項および利用制限があります。
 - デバッグサーバライセンスは開発用途でご利用ください。運用用途にはご利用できません。
 - デバッグサーバとして利用できるWebアプリケーションサーバは「intra-mart Accel Platform」でサポートされる Resin のみです。
 - 「intra-mart Accel Platform」を購入している場合、「intra-mart Accel Platform」に同梱されている Resin Pro をご利用できます。
 - サーバ構成はスタンドアロン構成のみです。分散構成は構築できません。
 - intra-mart Accel Applications およびその他の Extensions 製品の開発環境での利用については別途ライセンスが必要です。
 - intra-mart Accel Platform エンタープライズ で開発するお客様は IM-BIS、および IM-FormaDesignerのライセンスが必要です。別途弊社営業にお問い合わせください。

デバッグサーバ機能は intra-mart Accel Platform 2013 Spring(Climbing) より利用できます。

- デバッグサーバ機能は、intra-mart Accel Platform 2013 Spring(Climbing) より利用できます。
intra-mart Accel Platform 2012 Autumn(Alba) および 2012 Winter(Bourbon) で利用する場合、
別途 intra-mart Accel Platform のライセンスが有効である必要があります。

Webアプリケーションサーバ「Resin」に複数のwarファイルをデプロイして開発することはできません。

- デバッグサーバとして利用するWebアプリケーションサーバ「Resin」に複数の intra-mart Accel Platform 構成ファイル（warファイル）をデプロイした場合、デバッグサーバライセンスやスクリプトデバッグ等のデバッグサーバ機能が正常に動作しません。
そのため、デバッグサーバとして利用するWebアプリケーションサーバ「Resin」にデプロイする intra-mart Accel Platform 構成ファイル（warファイル）は1つにしてください。

— intra-mart e Builder for Accel Platform 2025 Spring リリースノート 初版 2025-04-01
プロジェクト作成時にエラー・ログにエラー・メッセージが表示されますが、生成されたプロジェクトに問題はありません。

- プロジェクトの作成時に、e Builder のエラー・ログ上に「Failed to update project build path.」
というメッセージが表示されますが、生成されるプロジェクトには特に問題はありません。
生成されたプロジェクト上での開発は可能です。

```
org.eclipse.dltk.mod.core.ModelException: リソース・ツリーは修正中のため、ロックされています。
    at
    org.eclipse.dltk.mod.internal.core.ModelOperation.runOperation(ModelOperation.java:784)

    at
    org.eclipse.dltk.mod.internal.core.ScriptProject.setRawBuildpath(ScriptProject.java:1947)
    at
    org.eclipse.dltk.mod.internal.core.ScriptProject.setRawBuildpath(ScriptProject.java:1918)
    at
    org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.PiggyBackClassPathUtil.savaVJetEntries(PiggyBackClassPathUtil.java:100)

    at
    org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.PiggyBackClassPathUtil.initializeScriptProjectFromJava(PiggyBackClassPathUtil.java:100)

    at
    org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.ts.EclipseTypeSpaceLoader.populateGroupInfos(EclipseTypeSpaceLoader.java:100)

    at
    org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.ts.EclipseTypeSpaceLoader.processAddGroup(EclipseTypeSpaceLoader.java:100)

    at
    org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.ts.EclipseTypeSpaceLoader.processChanges(EclipseTypeSpaceLoader.java:100)

    at
    org.ebayopensource.vjet.eclipse.core.ts.EclipseTypeSpaceLoader.resourceChanged(EclipseTypeSpaceLoader.java:100)

    at
    org.eclipse.core.internal.events.NotificationManager$1.run(NotificationManager.java:291)

    at org.eclipse.core.runtime.SafeRunner.run(SafeRunner.java:42)

-- 中略 --
```

プロジェクト名とアーティファクトID（ショートモジュールID）に入力する値は同一にしてください。

- プロジェクト名とアーティファクトID（ショートモジュールID）は同一の値に設定してください。
現在新規プロジェクトのウィザードにて自動的に同期をとるようにしています。
また、それに伴いプロジェクト名には半角英数字と“_”（アンダースコア）のみを利用できるようになりました。

Eclipseにインストールされているプラグインすべてが翻訳されているわけではありません。

- e Builder は Eclipse IDE for Java EE Developers をベースに構成されます。
Eclipse IDE for Java EE Developers 機能のラベルやメッセージは通常英語であり、日本語化および中国語化には、Eclipse Babel を利用しています。
e Builder が提供する機能に関しては、e Builder が提供するプラグインでは日本語化を行っています。
他のプラグインが提供する機能については、各プラグインが提供する範囲で言語対応がされています。
そのため、一部の機能ではラベルやメッセージが英語のまま表示されたりする場合があります。

e Builderのモジュール・プロジェクトからユーザモジュールをエクスポートする場合、依存関係が必ず設定されている必要があります。

- e Builderで出力されるユーザモジュールは必ず何かしらのモジュールを設定する必要があります。
ユーザモジュールの依存関係の設定方法に関しては「intra-mart e Builder for Accel Platform アプリケーション開発ガイド」の「module.xml」の章を参照してください。

全てのパースpekティブを閉じた状態で e Builder を終了しようとすると NullPointerExceptionが発生して終了できません。

- 全てのパースpekティブを閉じた状態で e Builder を終了しようとすると NullPointerExceptionが発生して e Builder は開いたまま終了できません。また、再起動でも同様の事象が発生します。
e Builder の終了前はパースpekティブを開いた状態にしてください。

e Builder の起動に時間がかかる場合があります。

- intra-mart e Builder for Accel Platform 2023 Autumn 以降では、アップデートサイトからの更新など、特定の操作をした後の e Builder の起動に時間がかかる場合があります。

e Builder のモジュール・プロジェクトからユーザモジュールをエクスポートする場合、エラー・ログにエラー・メッセージが表示されますが、問題はありません。

- ユーザモジュールのエクスポート時に、e Builder のエラー・ログ上に「Failed to read Maven project.」というメッセージが表示されますが、エクスポートされるユーザモジュールには特に問題はありません。

```
org.apache.maven.project.ProjectBuildingException: Some problems were encountered
while processing the POMs:
[FATAL] Non-readable POM C:\eclipse\sample_script\pom.xml:
C:\eclipse\sample_script\pom.xml (指定されたファイルが見つかりません。) @

    at
org.eclipse.m2e.core.internal.IMavenToolbox.readMavenProjects(IMavenToolbox.java:131)

    at
org.eclipse.m2e.core.internal.project.registry.ProjectRegistryManager.lambda$20(ProjectRe

    at
org.eclipse.m2e.core.internal.embedder.MavenExecutionContext.executeBare(MavenExecu

    at
org.eclipse.m2e.core.internal.embedder.MavenExecutionContext.execute(MavenExecution

    at
org.eclipse.m2e.core.internal.embedder.MavenExecutionContext.execute(MavenExecution

    at
org.eclipse.m2e.core.internal.project.registry.ProjectRegistryManager.readProjectsWithDep

    at
org.eclipse.m2e.core.internal.project.registry.ProjectRegistryManager.create(ProjectRegist

    at
org.eclipse.m2e.core.internal.project.registry.MavenProjectManager.create(MavenProjectM

    at
org.eclipse.m2e.internal.launch.MavenLaunchDelegate.readEnforcedJavaVersion(MavenLav

    at
org.eclipse.m2e.internal.launch.MavenLaunchDelegate.getVMInstall(MavenLaunchDelegate

    at
org.eclipse.jdt.launching.AbstractJavaLaunchConfigurationDelegate.getBootpathExt(Abstra

    at
org.eclipse.jdt.launching.AbstractJavaLaunchConfigurationDelegate.getVMSpecificAttribute

    at
org.eclipse.jdt.launching.JavaLaunchDelegate.getVMRunnerConfiguration(JavaLaunchDeleg

    at org.eclipse.jdt.launching.JavaLaunchDelegate.launch(JavaLaunchDelegate.java:160)
    at
org.eclipse.m2e.internal.launch.MavenLaunchDelegate.launch(MavenLaunchDelegate.java:

    at
org.eclipse.debug.internal.core.LaunchConfiguration.launch(LaunchConfiguration.java:806)

    at
org.eclipse.debug.internal.core.LaunchConfiguration.launch(LaunchConfiguration.java:717)
```



```
at
org.eclipse.debug.internal.ui.DebugUIPlugin.buildAndLaunch(DebugUIPlugin.java:1040)
at org.eclipse.debug.internal.ui.DebugUIPlugin.lambda$5(DebugUIPlugin.java:1120)
at
org.eclipse.jface.operation.ModalContext$ModalContextThread.run(ModalContext.java:122
```

スクリプト開発

Webページ・エディタでタグ内の属性値にタグを入力するとデザイン・ビューで表示が崩れることがあります。

- HTML中のタグ内の属性値として、`<imart type="string">`タグを記述した値を、`""`（ダブルクォーテーション）で囲んで入力するとデザイン・ビューの表示が崩れます。デザインビューでの表示を崩さない方法として、タグの属性値に`<imart>`タグを利用する場合`"`（シングルクォーテーション）で囲むと崩れずに表示されます。

```
<input type="hidden" id="target_locale" value="<imart type="string"
value=target_locale></imart>"></input>
```

構造上、問題のないタグに対して警告が表示されることがあります。

- `<form><table>`の組み合わせを行うとバリデーションで警告が出てきますが、実行した際にはこのタグの組み合わせは問題ありません。

```
<form>
<table>

-- 中略 --

</table>
</form>
```

HTML仕様上利用できる属性がWebページ・エディタのバリデーション機能で「undefined」と警告される場合があります。

- Webページ・エディタのバリデーション機能でHTML仕様上利用できる属性が「undefined」と警告される場合があります。たとえば、`form`タグに`id`属性を追加した場合、「undefined attribute name (id)」と警告されます。このように、HTML仕様上利用できる属性が警告される場合、この警告は無視してください。

- 開発時のファイルのエンコードはUTF-8で統一してください。

JSエディタでメソッドの”(“の後ろで入力補完を利用するとエラーが発生します。

- JSエディタで、メソッドの”(“の後ろで入力補完を利用しようとすると、エラーが発生します。これは、プラグインとして同梱されているVJETエディタの影響によるものです。

JSエディタでletを利用すると警告が出ますが、問題ありません。

- JSエディタでletを記述すると、エディタ上に警告が表示されますが、実行した際には特に問題はありません。

VJETエディタ上でデバッグを行った場合、特定の変数にマウスカーソルを合わせると「エラー・ログ」ビューが表示されます。

- 変数にマウスカーソルを合わせてオブジェクトの情報を表示しようとすると、「エラー・ログ」ビューが出力されることがあります。
上記の現象は、プラグインとして同梱されているVJETエディタの影響によるものです。

VJETエディタの入力補完で表示されるスクリプト開発用のAPIの候補リストはintra-mart Accel Platform の最新版に追従しています。

- VJETエディタの入力補完で表示される候補リストは intra-mart Accel Platform の最新版に追従しています。
そのため、旧バージョンの intra-mart Accel Platform 上で開発する場合に、その intra-mart Accel Platform 上では利用できないAPIも表示されることがあります。
利用可否についてはAPIリストの内容をご確認ください。

HTMLエディタおよびWebページ・エディタの入力補完で表示されるimartタグの候補リストは intra-mart Accel Platform の最新版に追従しています。

- HTMLエディタおよびWebページ・エディタの入力補完で表示されるimartタグの候補リストは intra-mart Accel Platform の最新版に追従しています。
そのため、旧バージョンの intra-mart Accel Platform 上で開発する場合に、その intra-mart Accel Platform 上では利用できないimartタグや属性が表示されることがあります。
利用可否についてはAPIリストの内容をご確認ください。

スクリプトデバッグでは、ブレークポイントのスキップができません。

- スクリプト開発のJSエディタに配置したブレークポイントにスキップの設定を行っても、設定が

- intra-mart e Builder for Accel Platform 2025 Spring リリースノート 初版 2025-04-01
有効にならず停止します。
本現象はVJETエディタ、JavaScriptエディタ双方に発生します。

JavaEE開発共通

パレットの表示メニューで、HTMLとJSPで共通のメニューは表示設定が同期しています。

- パレットのカスタマイズでHTMLエディタに対し、パレットメニューの非表示を選択すると、JSP側にもパレットメニューの非表示が反映されます。

JSPエディタでは、intra-martが提供するタグに対して必須属性のチェックのバリデーションが表示されません。

- JSPエディタで設定するintra-mart独自のタグに対し、必須属性の欠落に関するバリデーションは表示されません。
intra-mart独自のタグの実装を行う際はAPIリスト等でタグの必須属性に欠落がないかを確認してください。

JSPエディタではタグの属性値の有無に関して、バリデーションを表示しません。

- JSPエディタで存在しない属性の値を入力してもバリデーションは表示されません。
各タグに設定できる属性に対してはAPIリスト等で存在する属性かどうかを確認してください。

構造の問題のないタグに対してバリデーションが表示されることがあります。

- `<form><table>`の組み合わせを行うとバリデーションで警告が出てきますが、実行した際にはこのタグの組み合わせは問題ありません。

```
<form>
  <table>

  -- 中略 --

</table>
</form>
```

ソースファイルのエンコードはUTF-8で統一してください。

- 開発時のファイルのエンコードはUTF-8で統一してください。

クラス名、パッケージ名、フィールド名等を入力する項目に関しては一般的なJavaの命名規則に従い入力してください。

- 一般的なJavaの命名規則に従っていないクラス名（例: 先頭が大文字でないクラス名）、パッケージ名（例: 大文字,"-"が含まれるパッケージ名）、フィールド名（例: 先頭が大文字のフィールド名）を指定した場合、意図しない動作を行うスケルトンが出力される可能性がありますので注意してください。

モデルの定義におけるフィールド名は必ず1つ以上のフィールド名を指定する必要があります。

- 製品標準で提供する業務テンプレートの中で、入力項目の内、モデルの定義としてフィールド名を要求するものが存在します。
そのため、モデルの定義におけるフィールド名は必ず1つ以上のフィールド名を指定してください。

TERASOLUNA Server Framework for Java (5.x) ポートレットテンプレートは intra-mart Accel Platform のバージョンによっては修正する必要があります。

- 開発する intra-mart Accel Platform のバージョンによっては TERASOLUNA Server Framework for Java (5.x) ポートレットテンプレートで出力した画面は正常に動作しません。正常に動作させるには設定の修正が必要です。

intra-mart Accel Platform 2014 Winter(Iceberg) 以前の修正

1. 出力された設定ファイル **META-INF/spring/<%ポートレット名%>-portlet.xml** を修正してください。

修正前 : <bean
class="org.springframework.web.servlet.view.json.MappingJackson2JsonView">
修正後 : <bean
class="org.springframework.web.servlet.view.json.MappingJacksonJsonView">

intra-mart Accel Platform 2015 Spring(Juno) ～ 2015 Winter(Lydia) の修正

1. IM-Juggling の構成モジュールで「ライブラリ > サードパーティ製ライブラリ > Apache Commons BeanUtils」を追加してください。
2. TERASOLUNA Server Framework for Java (5.x) ポートレットテンプレートで出力したモジュールプロジェクトに **dozer-5.5.1.jar** と **dozer-spring-5.5.1.jar** のライブラリを追加してください。



コラム

- Dozer
<http://dozer.sourceforge.net/>
- ライブラリ追加の詳細については「[intra-mart e Builder for Accel Platform アプリケーション開発ガイド](#)」の「[e Builder での開発の流れ](#)」の「[モジュール・プロジェクトの構成](#)」にあるコラムを参照してください。

3. 以下の設定ファイルのいずれかを修正してください。

- **META-INF/spring/applicationContext-im_tgfw_common.xml** を修正する場合
下記コメントアウトをはずしてください。

```
<bean class="org.dozer.spring.DozerBeanMapperFactoryBean">
  <property name="mappingFiles" value="classpath*/META-INF/dozer/**/*-
mapping.xml" />
</bean>
```

- **META-INF/spring/<%ポートレット名%>-portlet.xml** を修正する場合
下記コードを <beans> 配下に追記してください。

```
<bean id="mapper" class="org.dozer.DozerBeanMapper" />
```

intra-mart Accel Platform 2016 Spring(Maxima) ～ 2016 Summer(Nirvana) の修正

1. 以下の設定ファイルのいずれかを修正してください。

- **META-INF/spring/applicationContext-im_tgfw_common.xml** を修正する場合
下記コメントアウトをはずしてください。

```
<bean class="org.dozer.spring.DozerBeanMapperFactoryBean">
  <property name="mappingFiles" value="classpath*/META-INF/dozer/**/*-
mapping.xml" />
</bean>
```

- **META-INF/spring/<%ポートレット名%>-portlet.xml** を修正する場合
下記コードを <beans> 配下に追記してください。

```
<bean id="mapper" class="org.dozer.DozerBeanMapper" />
```



コラム

- intra-mart Accel Platform 2016 Winter(Olga) 以降は修正不要です。

VJET の Formatter 設定画面は利用できません。

- intra-mart e Builder for Accel Platform 2023 Autumn 以降では、ウィンドウ > 設定 > VJET > Formatter 画面は正常に動作しないため、ご利用になれません。

intra-mart は株式会社 NTT データ イントラマートの登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

eclipse.org(<https://www.eclipse.org>)は開発を促進するために形成されたソフトウェア開発ツールベンドのコンソーシアムです。

EclipseはEclipse.org Projects におけるオープンソースの統合環境開発ツールです。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本製品を使用する場合は、本製品に含まれる各ソフトウェアのライセンスについても同意したものとします。

各ソフトウェアのライセンスについては、同封のライセンスシートをご参照ください。

以上

保証内容及び対象

この保証規程（以下、「本書」という。）並びに貴社が当社と締結した一切の契約が定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）

および制限事項の範囲内にて貴社が本製品を利用することを条件として、当社は貴社に対し、本製品に同封され、または当社ホームページ（<https://document.intra-mart.jp/library/?product=ebuilder>）に

掲載されているマニュアルの最新版のとおり本製品が動作することを保証します。

なお、当該保証は、貴社における内部的使用を目的とする限りにおいて適用されるものです。

また、当該保証は、当社の一方的な裁量により、無償で交換若しくは修補、又はかかる本製品の対価として

イントラマートが貴社から受領した金額の返金のいずれかの方法によるものとします。

上記の対応は、正規の当社製品を購入され、適法かつ誤りなくユーザ登録を完了されたお客様のみに当社が行うもので、当社はその他の対応又は保証、特に本製品をインストールしたハードウェア、接続製品、及びそれらに保存されたソフトウェア、データ等の保証（但し、これらに限られない。）は一切行いません。

保証の適用除外

下記の場合は動作保証が適用されません。

- 貴社が、本書又は貴社が当社と締結した一切の契約に定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）
その他の制限事項の定める範囲内にて本製品を利用しなかった場合
- 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害等の外部的事情による誤動作の場合
- 合理的な使用方法に反するご利用に起因する場合
- 貴社あるいは第三者が改変・変更等及びそれらの作業を行ったことに起因する場合
- 本製品以外のソフトウェア、ハードウェア等との互換性の問題から生じる場合

免責

本製品に関する当社の損害賠償責任は、理由のいかんを問わず、本製品の「ソフトウェア使用許諾契約書」に定める責任の限定の範囲内といたします。

その他の契約との関係

本製品の保証に関して、貴社が当社と締結した一切の契約と本書の間に齟齬がある場合には、本書の記載が優先するものとします。